

園のテーマ：友達とのつながりを深め、お互いの思いを伝えあいながら遊びこむ子ども

【遊びの経過】

生活発表会に向けて今まで経験したことやがんばってきたことを劇にしたいという思いが高まった。あいさつや言葉を大切にしてきたので、それを題材にしたいという意見でまとまった。劇の内容や配役をクラスで話し合ったり、セリフ、動きなども同じ役の友達と相談して決めたりして進めている。

【ねらい】

自分の思いやアイデアをだしたり、友達の意見を聞いたりしながら劇作りを楽しむ。

○幼児の活動

○みんなで決めた劇の内容を確認し、内容や場面に合ったセリフを考える。

どんなあいさつの言葉があるかなあ。【提案】

他にも気持ちの良い言葉があるんじゃないかな。【提案】

「おはよう」「こんにちは」「こんばんは」があるよ。【発見】

「ありがとう」「ごめんなさい」もあるよ。【気付き】

どんな言い方がいいかな。【提案】

○自分の考えた言葉を発表する。

机を出す時に手伝ってくれたよ。これは「ありがとう」だね。【発見】
【イメージの共有】

転んだ時に助けてくれたよ。これも「ありがとう」だね。【発見】
【イメージの共有】

○次の展開を考える。

泥棒が素敵な言葉をとっていくという話はどう？ 【提案】

宝箱がなくなったらどうする。【疑問】

宝箱を見つけたら泥棒は返してくれるかなあ。【疑問】

みんなで探しに行き取り返そう。【提案】 【協力】

クイズをして答えられたら返してもらえるというのはどうかなあ。【提案】

じゃあ、みんなでクイズを考えよう。【協力】 【意欲】

いいねえ。【共感】

○振り返りをする。

他にもどんな言葉があるか探してみよう。【提案】

いろいろな言葉が見つかったね。【発見】

クイズを考えてこよう。【提案】 【協力】

★環境の構成 ■保育者の援助

■今までみんなで大切にしてきた気持ちの良いあいさつや言葉を思い出し、その時にどんな気持ちになったかを考えられるように話し合う場を設ける。

■どんな時にどんな言葉を使うかを子どもと考えながら色々な気持ちの言葉を引き出していく。

■自分の生活を振り返ることができるように具体的な場面を提示していく。

★劇で使う宝箱を見せ、宝箱には素敵な言葉をしまうものだという事を知らせ、言葉見つけに期待が持てるようにする。

■子どもたちの見つけた言葉の意味を子どもたちと考え、宝箱に入れるのにふさわしい言葉を決められるようにする。

★泥棒からの手紙を見せ、素敵な言葉の入った宝箱を取り返そうとする気持ちを高める。

■子どもたちの意見をみんなで決めた劇のストーリーと照らし合わせ、子どもたちが納得して楽しめる言葉や内容を選べるように確認し合う。

■どんなことをクイズにしたら楽しいか、今まで経験したことの中から考えられるように、色々なヒントを出す。

■クイズのまとめをし、答え方や問題の出し方について一緒に考えていく。

■劇作りを振り返る中で、自分の思いがしっかりと出せているか、思いを伝え合っているかを確認する。

■子どもたちの提案した次の展開(クイズを考える)に繋がるような言葉かけをしていく。

【評価】

・友達と思いやアイデアを出し合い、劇の内容や配役、セリフ、動きなどを決めて劇作りを楽しんでいる。